

比角校だより

平成 23 年 12 月 20 日
第 9 号

後期前半を振り返って、事故のない楽しい冬休みを！

校長 小暮 哲郎

おかげ様で、10 月 12 日から始まった後期の前半が無事終わろうとしています。大きな行事としては、1000 名が参加したスタントマンによる「比角地区交通安全教室」、2 年ぶりに開催された「音楽会」、吹奏楽部が出演した「小中合同音楽会」、縦割り班毎に工夫を凝らした「比角っ子祭り」、6 年生と第二中学校生徒全員が自分自身の生活について見直す機会となった「小中合同学校保健委員会」などがありました。

交通事故については、10 月 14 日の交通安全教室以降、発生していません。これから本格的な冬を迎えます。子どもに注意を促すとともに、私たち自身も雪道や凍結した道路の運転に十分注意し、加害事故を起こさないよう努めていきたいものです。音楽会は、想像を超える盛り上がりでした。毎年音楽会を開いてほしい声も、たくさんありました。校内で検討した結果、子どもの生き生きとした姿を直接ご覧いただける点や学年のチームワークが向上する点を考慮し、毎年音楽会を開くことに決定しました。小中合同音楽会には、吹奏楽部に替わって、学校代表として 4 年生全員が出場することにしました。なお、展覧会と銘打った行事は行いませんが、子どもの絵・版画・工作・習字などは授業参観などで目にすることができます。30 年ぶりの大行事の大きな転換ですが、ご理解の程、よろしくお祈りします。

行事も大切なのですが、何よりも大切なことは一日一日の生活です。毎日同じことの繰り返しのような感じがしますが、1 時間 1 時間の授業に集中することによって本物の力が付きます。当校の今年度の研修テーマは、「伝え合う力を培う指導の工夫」です。特に、国語科の話す・聞く指導を工夫することによって、伝え合う力を付けていきたいと全職員で取り組んでいます。先日、3 年松組の国語「三年とうげ」と 6 年竹組の国語「学級討論会をしよう」の研究授業を参観しましたが、集中して授業に取り組んでいて感心しました。

さて、12 月 23 日（金）から 1 月 9 日（月）までの 18 日間は冬休みとなります。冬休みは、クリスマス、大晦日、お正月など子どもにとって楽しいことがいっぱいあります。ぜひお願いしたいことは、「事故のない安全で楽しい冬休み」にしてほしいことです。自由な時間がいっぱいあります。ゲーム漬けの日々だけは避けてください。親子や家族の絆をいっそう深めていただければありがたいと思います。地域の皆様には、交通事故防止をはじめ不審者対策など、子どもたちの安全確保についてよろしくお祈りします。危ない場面を見かけた時には、その場で注意をお願いします。また、学校に連絡いただければありがたいです。来年は「辰年」です。子どもたちや比角校区の皆様の一っそうの飛躍の年となることを願っています。よいお年をお迎えください。

小中合同学校保健委員会から

12 月 2 日（金）午後、6 年生全員が第二中学校に出向き、学校保健委員会に参加してきました。テーマは「ハッピーライフ宣言の実行を就寝時刻から考える」でした。時間の使い方を工夫し、各自が自分に合ったハッピーライフ宣言の実行を目指すことがねらいでした。ハッピーライフ宣言とは当校と第二中学校が共に取り組んでいることで、次の内容です。



○朝ごはんを必ず食べよう。○睡眠時間を十分とろう。(小学生：8～9時間、中学生：7時間以上) ○時間の使い方を工夫し早めに寝よう。(小学生：夜9時～10時までに、中学生：夜11時までに)

この取組を難しくしているものが、テレビ・携帯電話・パソコン・ゲーム機等のディスプレイと呼ばれる電化製品です。アンケートにより、ディスプレイの影響で寝る時刻が遅くなる傾向が分かりました。ディスプレイの身体に及ぼす悪影響を学んだり、グループ毎に生活改善に向けて意見交換したりしました。努力して実行してほしいと思います。

実は昨年11月、上越教育大学の石野正彦先生から専門的な立場から「テレビやゲームと上手につき合う方法」を教えていただく機会がありました。要点を紹介します。

- ・ゲームの依存症が怖い。特にロールプレイングゲームは、終わりが無い世界で、やめるのがとても難しい。ゲームの主人公が、自分の分身のように思えてくる。やめられないようなゲームは、しないことが大切である。中にはこのゲームにはまってしまい、昼夜を問わずゲームをやり続け、健康を害している若者がたくさんいる。ゲームをするなら、頭を使うゲームやすぐやめられるゲームがよい。
- ・ゲームが脳に与える刺激は、単なる反応である。それも瞬間の反応であり、思考力に害を及ぼす。人間にとって大切な思考力や想像力を鍛えるには、読書の刺激がとても大切である。
- ・インターネットやコンピュータは道具である。よい使い方をすることが大切である。
- ・日本人は、世界一睡眠時間が少ない。特に子どもは、夜9時頃寝るのが理想的である。夜11時頃が最も脳や体の成長ホルモンが出るからである。
- ・生きていくために必要なのは、知識ではなく知恵である。そうじなどの手伝いや様々な体験から知恵が身に付く。

石野先生は、ロールプレイングゲームの危険性を特に強調されていました。「柏崎の教育3・3・3運動」のちらしの中心に「ノーテレビ、ノーゲーム」と記されています。ゲームやテレビについて親子で約束を決めてみたらいかがでしょうか。

学力向上に向けて、国語の力が基本

私は、全ての教科における学力向上のポイントは、国語の力を付けることだと思います。日々の授業は、国語はもとより算数であろうと社会であろうと全て日本語で行われています。国語の力が付かないと、先生や友達の話している内容を正しく聞き取ることができません。テストも、日本語で出題されます。問題の意味が理解できないと正解することは難しいでしょう。では、国語の力を高めるにはいったいどうしたらよいのでしょうか。国語の基本である「読む」「書く」「話す」「聞く」ことに、バランス良く日常的に取り組むことが大切だと思います。

当校では、読書活動に力を入れています。読書は、知識を得たり心を豊かにしたりするとともに国語の力を付けることにつながります。学校や家庭での生活を振り返り、改善したり工夫したりできる場所はないでしょうか。親子で話し合うことは、「聞くこと」と「話すこと」を無意識のうちに同時に行っていることになります。特に小学生の頃は、親に話したいことがいっぱいあります。ぜひ、子どもさんの話に耳を傾けてください。こんな些細なことの積み重ねで、確実に国語の力が付きます。

愛の見守りと声かけ運動

比角コミセンの「元気な町づくり実行委員会」が右のようなリーフレットを作り、校区内全家庭に配付しました。あいさつと交通事故防止に校区全体で取り組んでいこうとするものです。見える所に貼って、意識づけを図っていただきたいと思います。

